

昨年末から今年にかけて、各パソコン通信サービス各社がインターネット接続を強化したため、今までごくシンプルなパソコン通信を楽しんできたBBSユーザーにとっても、インターネットが身近な存在になってきた。今回は、現在の大手商用BBSサービス各社の対応状況をまとめ、BBSユーザーにとってのインターネット利用を考えていくことにしよう。

【テキストWWWからPPP接続まで
サービスの多さで現在トップ】

ASAHI ネット

現在、日本のBBSサービスとしては、最先端といってもいいほどのインターネットアプリケーションを提供している。インターネットメールアドレスを発信する際には、宛先として直接インターネットアドレスを記入すればいい。相手にはID@j.asahinet.or.jpからと、jというサブドメインらしきものがついたメールとして届く。直接このアドレスに対してリプライすることもできるし、jを省略したアドレスでもメールは正常に届く。到着メール数やサイズに関する制限もない。

サポートされているサービスには、Anonymous FTP、TELNET、WHOIS、NetNews、finger、WWWがある。

FTPを起動すると、jpをカレントディレクトリとするツリー構造を参照できるようになり、cdコマンドを使ってさらに上位あるいは下位のディレクトリに降りていくことができる。つまり、世界中のFTPサーバーが、1つのハードディスク中に散在するサブディレクトリのようなイメージで参照できるわけだ。個々のサーバーにアクセスする場合は、ログインのプロセスは不要で、自動的にanonymousとしてログインさせ

らようになっている。

特定のファイルをダウンロードする際には、ホストが受け取ったデータを、リアルタイムでユーザーのパソコンにZMODEMなどのプロトコルを使って送り出す。NetNewsでは、購読するニュースグループと購読しないニュースグループを設定でき、通常の会議室同様に、リターンキーを押すだけで未読記事を読み進めることができる。

また、fjニュースグループ（日本語のニュースグループ）に関しては、全文検索機能が用意され、膨大な数のニュースの中から、望みの記事を探し出すのに便利だ。

特異なサービスとしては、テキスト形式のWWWサーバーアクセス機能がある。これは、ホームページをテキストデータのみで表現することで、一般のパソコン通信ソフトでも、WWWサーバーにアクセスすることを可能にするものだ。リンクの張られたキーワードには、[n]の形で番号がふられ、その番号を指定することで、別のページにジャンプすることができる。モデムのスピードが期待できない場合には、かなり効率的な方法といえるだろう。

また、BBSサービスとしては、他社に先駆けて、PPPによるTCP/IP接続も開始した。

サービスの利用には、一般のアクセスポイントと同一の電話番号を使う。ユーザーIDとして、ppp/IDと、pppとスラッシュ

に続けて自分のIDを指定、続けてパスワードを入力し、それが認証された時点でPPPのネゴシエーションが始まる。これでつながってしまえば、モザイクだろうが、POPだろうが、TELNETだろうが、さまざまな手持ちのインターネットアプリケーションが利用できるようになる。

ASAHIネットの課金は1万円が上限で、それ以上は特殊なデータベースサービスなどを使わない限り、フリーアクセスとなるが、PPP接続時の課金はその対象外。とはいえ、1分10円という設定は、28800bpsをサポートしたPPP接続のチャージとしては、今のところ十分にリーズナブルな価格だといえるだろう。

【豊富なアクセスポイント
メーリングリストには不向き】

ニフティサーブ

日本各地に散在する豊富なアクセスポイントが魅力。ただ、14400bpsの回線でも、ホストが重い際には、額面どおりのスピードが出ないことが多いのが残念だ。提供サービスは、電子メール、TELNET、NetNewsのみとなっている。

電子メールアドレスはID@niftyserve.or.jpとなり、相手にもこのIDからのメールとして届く。発信の際には相手のインターネットメールアドレスの前にINET:という文字列をつけなければならない。インターネットからのメールは、一様にINE00101というIDを持つINETGATEというユーザーからのメールとして届くが、返信などをする場合、きちんと認識され、差出人にメールが送られるようになっている。

問題は、メールボックスのサイズの上限で、24通までしか受け取れず（エグゼクティブ・オプションという有料サービスを設

定すると50通までは拡張できるが、それを超えて届いたメールは差出人に返送されてしまう。こういったシステムである以上、メーリングリストなどの利用は控えるべきだ。

NetNewsに関しては、fjとtnn（IJがサポートするニュースグループ）のみを扱う。一覧表示からfj.[a-b]などとアルファベット順にメニューをたどって目的のニュースグ

ループにアクセスできる。もちろん、グループごとの未読は記録され、一般のフォーラムに設置された会議室と同様の方法で読み進めることができるが、GOコマンドなどで、直接、そのニュースグループにジャンプできないのが不便だ。ニュースの発行者は、メール同様INET00010をIDにもつINET GATEというユーザーになっている。

外部からTELNETによってニフティサー

ブにログインする場合には、r2.niftyserve.or.jpをオープンする。頭にr2がついている点に注意してほしい。これはニフティサーブのroad2を表している。TELNETによるログインの際の課金は2400bpsアクセスポイントの料金と同じなので、使用料が安い。高速なインターネットアクセスが確保できる場合には、直接9600bpsのアクセスポイントにつなぐよりも割安になることもある。

ASAHIネットのFTP

=== インターネット接続

1. インターネットの利用について
 2. インターネットクラブ
 3. Anonymous FTP の利用
 4. TELNET の利用
 5. WHOIS サービスの利用
 6. NETNEWS サービスの利用
 7. FINGER サービスの利用
 8. FINGER 用自己紹介の登録
 9. WWW の利用
 10. ダイアルアップIP接続
- 0【トップメニュー】
番号> 3

接続先ホスト名:

=== Anonymous FTP ファイラー一覧 総数 8 1/1 頁

番号	サイズ	最終更新時刻	[/jp]
1.	3,072	95/2/19 07:42:12	ac
2.	512	95/2/19 07:42:12	ad
3.	1,024	95/2/19 07:42:12	co
4.	512	95/2/19 07:42:12	go
5.	512	95/2/19 07:42:12	kek
6.	512	95/2/19 07:42:12	ntt
7.	512	95/2/19 07:42:12	or
8.	512	95/2/19 07:42:12	tokyo
11. 次頁	12. 前頁	13. 頁移動	14. 15. ホスト 16. ディレクトリ 17. Archie
99. 終了	番号> 7		

=== Anonymous FTP ファイラー一覧 総数 23 1/3 頁

番号	サイズ	最終更新時刻	[/jp/or]
1.	512	95/2/19 07:44:52	apic
2.	512	95/2/19 07:44:52	asahi-net
3.	512	95/2/19 07:44:52	ascinet
4.	512	95/2/19 07:44:52	astem
5.	512	95/2/19 07:44:52	bekkoame
6.	512	95/2/19 07:44:52	coara
7.	512	95/2/19 07:44:53	ibbsal
8.	512	95/2/19 07:44:53	icot
9.	512	95/2/19 07:44:53	ieice
10.	512	95/2/19 07:44:53	ijjnet
11【次頁】	12. 前頁	13. 頁移動	14. 15. ホスト 16. ディレクトリ 17. Archie
99. 終了	番号> 17		

*** Archie でファイルを検索します。

1【検索開始】 2. 検索開始(オプション指定): 1

*** 接続するarchieサーバを選択してください。

1. 任意のarchieサーバのアドレスを指定
- 2.archie.ijj.ad.jp IJのサ - バ(世界の情報)
- 3.archie.sura.net SURAnetのサ - バ(世界の情報)
- 4.archie.kyoto-u.ac.jp 京都大学の実験サ - バ(日本の情報) 5. 中止: 5

【 一方通行のTELNET
NetNewsは読み出しのみ 】

PC-VAN

ニフティサーブ同様に、日本最大クラスのBBSとして存在する大手サービス。

サービスはメール、NetNews、FTPの3種類のみをサポートする。TELNETによる外部からの接続はpcvan.or.jpをオープンすることで可能だが、PC-VANから外に出ていくことはできない。

電子メールをインターネットに対して発信する場合には、相手のIDの頭にINET#を付加する。

NetNewsは、fj、comp（コンピュータ関連）、news（ニュースグループ関連）、rec（レクリエーション）、sci（科学一般）、talk（政治関連）を購読することができる。ただし、購読のみで投稿はサポートされていない。ニュースのヘッダに書かれているサブジェクトや投稿者名などで、特定の記事を検索する機能も用意されている。ただし、各記事はPC-VANのホストへの到着後2週間で削除されてしまう。

FTPは、相手先がinfo.macのみに限定されている。

かなり古くから、WIDEプロジェクトとのメール相互接続やMHSメールの実験サ

表1 大手商用BBSのインターネットサービス概要

(2月25日現在)

	ASAHIネット	ニフティサーブ	PC-VAN	アスキーネット	日経MIX	PEOPLE
電子メール	メールボックスの受信制限、保管数無制限。読み出しは50通まで(拡張可能)	24通(50通まで拡張できる)	999通	無制限。20KBまで保管(5MBまで拡張できる)	無制限	無制限。表示は50通まで
TELNET	インターネット経由外部からの接続 インターネット経由外部への接続					
NetNews	購読 投稿					
FTP						
WWW						
Archie						
Gopher						
whois						
finger						
備考	PPP接続もサポート					
アクセスポイント数	105か所	188か所	187都市370か所	28か所	11か所	約700か所
料金体系	入会金 3,000円 利用料金 月会費1,000円 (月2時間まで) 2時間超過分は10円/分 上限10,000円 PPP接続分は上限なし	なし 10円/分: 2400bps 25円/分: 9600bps 14400bps	2,000円 月額固定制 2,000円 従量制 20円/3分: 2400bps 20円/分: 9600bps 14400bps	3,000円 月会費2,000円 (月5時間まで) 5時間超過分は20円/分	3,000円 970円/30分 20円/分: 31~240分 10円/分: 240分 上限10,000円	なし 10円/分: 2400bps 20円/分: 14400bps
問い合わせ先	03-3666-2811	03-5471-5806	03-3454-6909	03-3486-9661	03-5696-1111	0120-860-864

TELNET: 今ログインしているネットから他のコンピュータへログインする機能。
FTP: ここではAnonymousFTPサイトからのファイル転送機能を意味する。
WWW: ハイパーテキストで作られたWWWサイトの情報をブラウジングする機能。
Archie: キーワードに検索によってソフトやデータの所在を検索する機能。
Gopher: メニューシステムによりインターネット上のいろいろな情報を検索する機能。
whois: インターネット上のドメイン名などを検索する機能。
finger: ホスト名を指定してユーザーの情報を検索する機能。

ービスなどインターネットへの取り組みには熱心だったPC-VANだが、これらの後遺症に頭を悩まされている段階なのかもしれない。今もなお、アスキーネットへのゲートウェイなどのメニューが残り、そこを使うことでアスキーネットにログインすることができる。日本を代表するサービスとしては、今一つのがんばりがほしいところだ。

**【 2月からArchieスタート
NetNewsの購読が便利 】**

アスキーネット

日本のパソコン通信サービスとして草分け的な存在。28800bpsの実験回線を含む高速アクセスを付加料金なしで利用できるが、夜の時間帯などでは、あまりにもホストが重く、実効スピードを確保できないばかりか、実用性にも疑問を感じるほど反応が鈍くなる。この点をのぞけばかなり高品質

のインターネットサービスを受けられる。サポートされているのは、メール、TELNET、whois、finger、FTP、Archie、NetNewsとなっている。メールは素直なインターフェイスで、宛先として、相手のインターネットアドレスを指定するのみで、会員に対する電子メールと同様に発信することができる。

FTPを使うにはパーソナルスペースというサービスの申し込みが必要だ。これは、毎月500円の付加料金で、5Mバイト分のディスクスペースを確保してもらえるサービスで、FTPの利用には、このサービスを使うことが前提となる。

FTPでダウンロードしたファイルは、いったんこのパーソナルスペースに保存され、そこから、ZMODEMなどのプロトコルを使って自分のパソコンにダウンロードすることになる。パーソナルスペースの容量上限が約5Mバイトなので、その容量を超えるファイルをFTPで持ってくることはでき

ないということだ。1Mバイトを5分でダウンロードできる28800bpsのサービスを提供しているわりにはちょっと寂しい。

ただ、パーソナルスペースは、自分専用のディスクとして、ログアウト後も内容は保存されるので、インターネットからアスキーネットへのダウンロードは米国内のトラフィックが少ない日本の昼間に行い、アスキーネットから自分のパソコンへのダウンロードは、高速回線のメリットを享受するためにホスト負荷の軽い早朝をねらうといったことができる。NetNewsは、アスキーネット独自のコミュニケーションシステムであるハイパーノーツと同じインターフェイスで読み書きが可能だ。これは、1文字のアルファベットによって、ビジュアルに一覧できるニュースをコメントツリーに従って読んでいけるシステムで、かなり効率的にニュースグループを購読することができる。

また、巡回リストを自分で用意すること

もでき、あらかじめそこに購読したいニュースグループ名を書き込んでおくことで、そのグループのみを巡回していくことができる。この機能は想像以上に便利で、まるで、ホスト内のSIGのような感覚でニュースグループを楽しめる。

ニックネームのアドレスは
コミュニケーションに最適

日経MIX

ニックネームを自分で決め、それが既存ユーザーのニックネームに重複しなければ

その名前で以降のログインができる。IDは別に存在するが、システム内部のもので、電子メールの宛先や会議での発言などにはすべてニックネームが使われる。ログインに際してもニックネームを使う。つまり、日本の大手BBSのなかでは唯一、数字やアルファベットの羅列ではなく、名前としてわかりやすいインターネットメールアドレスを持てるBBSというわけだ。たとえば、自分でsyoheiというニックネームをつけたとすれば、メールアドレスは、syohei@mix.or.jpとなる。直感で誰かが判別できるメールアドレスは、コミュニケーションにとってきわめて重要な要素だといえるだろう。サービスは、電子メールのほか、FTPとTELNETがサポートされている。

FTPによって入手しようとしたファイルは、日経MIXのホストを経由し、リアルタイムで、パソコン側にZMODEMなどのプロトコルを使ってダウンロードする。複数のファイルをまとめて転送するmgetコマンドなどもサポートされているので、使用にあたって不便を感じることはないだろう。

独自のニュースグループ開設
TELNET 接続先を設定できる

PEOPLE

日本アイ・ピー・エムなどが出資するピープル・ワールドが運営しているパソコン通信サービスで、ASAHI ネットとは兄弟関係にあるといってもいいサービスだ。マガジンハウスの情報誌『Hanako』がサポートするHanako ネットとの提携など、画像通信にも力を入れ、新しいトレンドに積極的に取り組む姿勢が頼もしい。

インターネットに関しては、電子メール、

アスキーネットのニュースグループ巡回リスト

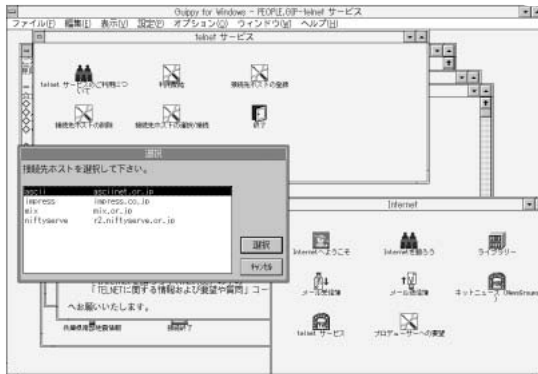
```
MENU>> netnews -?
使い方 :netnews ニュースグループ名 (全て読む)
       :netnews -s ニュースグループ名 (新規メッセージのみ)
       :netnews -x ニュースグループ名 (標準モード)
       :netnews -i ニュースグループ名 (インデックスモード)
       :netnews -f [ラベル名] (巡回リストに従う)
       :netnews -r (巡回リストの作成)
ニュースグループの一覧を表示しますか(y/n)?y
comp.admin.policy Discussions of site administration policies.
comp.ai           Artificial intelligence discussions.
comp.ai.alife     ??
comp.ai.edu       Applications of Artificial Intelligence to Education.
comp.ai.fuzzy     Fuzzy set theory, aka fuzzy logic.
```

続きを表示しますか[y/n/c]? n

```
MENU>> netnews -r
1: 巡回リストの作成/編集
2: 巡回リストの表示
3: 巡回リストの削除
4: 画面一時停止変更
5: 終了
>> 1
EDITOR>> u
入力を終えるには行の先頭で . か、 ^D を打って下さい。
comp.home.misc
comp.ibm.pc.hardware
fj.news.misc
^D
EDITOR>> w
1: 巡回リストの作成/編集
2: 巡回リストの表示
3: 巡回リストの削除
4: 画面一時停止変更
5: 終了
>> 5
```

```
MENU>> netnews -f
このニュースグループに記事はありません: comp.home.misc
<リターンキーを押して下さい>
```

```
[ NetNews_INDEX ] comp.ibm.pc.hardware      10:06:10 02/20/95
Date_____No_Creator_____Res_Title_____
02/09>    1 rlj@primenet.com      1 Computer Yardsale...
02/10      2 shade@primenet.c      1 Re: EISA SCSI controllers
02/10      3 Simon@gonzo.demo            3 Re: Please help me identify thes
02/13      4 Tim@timd.demon.c          3 Joystick Problem....
02/13      5 jsart@ix.netcom.             0 Lode Runner joystick problem
02/15      6 Yat Chan <ychan@             1 HELP!!!NEED HELP FAST ON SCSI AN
```



PEOPLEでTELNETの接続先を選択。ソフトは専用のGuippy。

TELNET、NetNewsをサポートしている。インターネットメールアドレスは、ID@People.or.jpで、宛先にインターネットメールアドレスを直接指定することで、外へのメール発信ができる。

NetNewsに関しては、ニュースグループを、alt(全般)、comp(コンピュータ関連)、fj、sci、fp(PEOPLEニュースグループ)などに分類し、そこから分岐する各ニュースグループにアクセスできるようになっている。読み方は、他の会議室同様に、リターンキーを使って未読を読み進める操作方法をとっている。

TELNETは、相手のホスト名をフルレベルで指定するだけでなく、自分が頻繁に使うホストを登録でき、メニューで一覧を出して、そのなかから番号で選択することで接続するような操作方法もとれる。

BBSは最もリーズナブルなインターネットへの入り口

このように、一般のBBSサービスに加入するだけでも、かなり広い範囲でインターネットアプリケーションが利用できるようになっていることがわかる。いわゆるインターネットプロバイダーにPPP接続するのと比較して、制限は多いが、現状でのモデ

ムの通信速度を考えると、この程度をサポートでも、十分に実用的なのではないかと思われる。何より、全国各地のアクセスポイントの数と、アクセス料金の安さをありがたく感じるユーザーも多いだろう。とくに、ASAHIネットは、サービスの種類において、群を抜いている。

サービスごとにいえば、NetNewsに関してはアスキーネット、FTPに関してはASAHIネット、メールアドレスにニックネームが使用できる点で日経MIXが優れている。どちらかといえば、中堅に位置するサービスのほうが、積極的にインターネットに取り組んでいることがよくわかる。

今後はますます各社のサービスが広範囲に及び、インターネットプロバイダーとの区別が難しくなっていくだろう。BBSとして、ライブラリの充実や、会議室などの拡張、そして、オンラインショッピングに代表されるトランザクションサービスなどに力を入れてきた各社が、サービスの質自体を問い直さなければならない時期がきているわけだ。

もちろん、インターネットプロバイダーも、つなげるだけで、高価なアクセスフィーを課金するようなビジネスの方法は、取れなくなるだろう。さらに綿密なサポートやサービスの充実が求められるに違いない。

あるいは、さらなるアクセスフィーの値下げが求められるだろう。今のところ、インターネットプロバイダーと呼ばれる各社に一般回線によるダイヤルアップPPP接続を申し込んでも、自分でオリジナルのドメイン名を取得することができるわけではない。たとえば、impress.co.jpというドメイン名をユーザーが持っていたとしても、そこにメールが届くようにするためには、専用線接続やUUCP接続を申し込むしかない。そのためには、パソコン1台を24時間運転させておく必要がある。PPP接続では、パソコン通信同様に、プロバイダーごとに特別なドメインが設けられ、そこにメールが届くことになる。必要に応じて電話をかけてメールを読み書きするという意味では、これは、各パソコン通信サービスでの電子メールと何ら違いがないわけで、モザイクなどのGUIを使ったインタラクティブなアプリケーションを使おうとしない限りは、プロバイダーに登録する意義はきわめて薄くなってきているといえるだろう。

ASAHIネットなどのように、パソコン通信サービスの会員になるだけでPPPが使えるようなホストが出てきたのだから、ますます個人ユーザーにとってのインターネットプロバイダーの存在価値は希薄になってきている。

こうした事情を頭におきつつ、今、加入しているパソコン通信サービスのインターネットアプリケーションをフルに使いこなして、世界を舞台にしたネットワークングを楽しんでほしい。

「BBSユーザーのためのインターネット入門」はこれでおしまいです。次号からも引き続き、パソコン通信でインターネットを活用するための情報を、新しい形で紹介していきます。乞うご期待！



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp